

第3回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会 議事録

開催日時	平成29年8月28日(月) 午前9時30分から11時40分まで	開催場所	市役所本庁舎3階 委員会室
出席者 〔敬称略〕	(1号委員) 作山康、平石正美、山田あすか (2号委員) 上村義弘、大森真理子、小倉恵美子、籠倉正美、前田由美子 (3号委員) 金内美智留、近藤晶作、齋藤勝、昼間竹雄、古庄正登、三ヶ島幸生		
欠席者 〔敬称略〕	(3号委員) 内田亜希子	傍聴者数	4人
審議内容及び審議結果の概要	1 開会 2 会長あいさつ 3 第2回審議会議事録内容の確認について ※事務局説明、内容について了承 4 議事 (1) 前回(第2回)審議会のふりかえり ※事務局説明 (2) 議題 ①ワークショップの実施結果について ②アンケート内容の確認について ※①・②事務局説明 ③規模設定の考え方について ※③事務局説明、継続審議 5 その他 6 閉会		
提供資料	・次第 ・席次 ・第2回審議会議事録(案) ・第3回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会資料 ・「八潮市庁舎建設基本構想」策定に係る市民アンケート調査		

【議事詳細】

第3回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 第2回審議会議事録内容の確認について
 ※事務局説明、内容について了承
- 4 議事
 (1) 前回(第2回)審議会のふりかえり

事務局	資料に基づき説明
委員	(質問等なし)

議長	<p>前回の審議会にて、事務局に宿題が出されていたかと思う。前回のふりかえりでも触れられていたが、「新庁舎建設場所」における議題の中で、公共施設の再配置に関するご意見があったと思う。本審議会は庁舎の整備に関して審議するものだが、非常に重要な点であるので、整理が必要であると思い、第3回審議会での説明をお願いした。事務局から整理した考え方について説明願いたい。</p>
事務局	<p>公共施設の配置に関しては、アセットマネジメントアクションプランにおいて、「公共施設の配置に関する取組の基本的な考え方」が示されており、今後、この考え方に基づき、取り組んでいく。</p> <p>各公共施設をつなげる施策の必要性として、例えば、市役所と駅を結び連続性を持たせるために、都市計画マスタープランにおいて、将来都市構造として市役所周辺と駅周辺を都市核とし、それらを結ぶ都市軸が示されており、それぞれ、まちづくりの考え方がまとめられている。</p> <p>以上のように、委員からのご意見に対しては、市全体のまちづくりとして、今後、都市計画マスタープラン及びアセットマネジメントなどの考え方に基づいて、計画的に進めていきたい。</p> <p>また、この考え方を踏まえて、庁内体制としては、まちづくりの関係課との連携を強くもち、市民の皆様にも参加いただきながら、着実に進めていけるような制度・仕組みについて検討していきたい。</p>
議長	<p>公共施設とまちづくりをどのように連携させていくかについての説明をいただいた。まちづくりにおいてはハードとソフトが上手く連携しながら進み、蓄積されていくことが重要である。その際には、色々な観点の蓄積が必要となってきた、市民と行政の信頼関係をどのように醸成していくのか、今までの動きをどう蓄積してまちづくりとして面的に展開していくのか、様々な段階に応じた政策がある。</p> <p>市としても、様々な課の連携により、より良いまちづくりに取り組んでいただければと思う。</p>

(2) 議題

① ワークショップの実施結果について

事務局	資料に基づき説明
議長	<p>ワークショップにおいては、参加者の方々からたくさんの意見をいただいたとの説明であった。それらは今後の検討に際して重要なキーワードになると考えている。事務局より説明があったが、「防災」というキーワードが市民の皆様から多く出されている。本審議会においても数回「防災」についての議論がなされたと記憶している。改めて、確認の意味でも、委員の皆様よりご意見いただければと思う。</p>
委員	24時間使える屋根付き広場とは、どのような使用目的の意見なのか。
事務局	ワークショップ当日の資料にて紹介されている、新潟県長岡市の事例を確認いただきたい。

	地域の交流スペースとして利用されていると当日は説明されており、そのような使い方を想定されての意見であったものと認識している。
委員	24時間である必要があるのか。
議長	今回たまたま出された意見がそのような文言を含んでいただけであり、オープンスペースがほしいとの趣旨であると思われる。
委員	<p>庁舎の建替えの複合化の議論中で、保健センターの老朽化や、メセナの維持管理費の負担増加も、問題と認識している。</p> <p>また、市役所の周辺にはトライアングルで楽習館とエイトアリーナがあり、それぞれ徒歩5分程度の距離に位置している。その距離を活かし、一つの場所に機能を集積させるのではなく、それらの場所をうまく連携させることで保健センターやメセナの複合化といった問題や駐車場等の問題も解決できるのではないかと。</p> <p>市役所が避難の拠点となるとともに、エイトアリーナや楽習館も避難の拠点となることのできるようになる。</p> <p>様々な機能を一つの場所に集約すると、駐車場の不足などの、デメリットも発生する。それらの市役所周辺の場所も踏まえ、ある程度の分散も検討すべきではないかと。</p>
議長	<p>拠点整備、防災拠点の複数整備についての意見をいただいた。市としてはアセットマネジメントの取組として、厳しい財政の中でどのように全体機能を整備していくかということについて検討を進めているものと認識している。</p> <p>本審議会としては、理想的な部分、現実的に対応可能な部分、それから時間的に整備が比較的早くできるという部分をどう上手くすり合わせていくのかが議論の中心となってくると考えられる。事務局の意見はどうか。</p>
事務局	<p>現在、市ではアセットマネジメントの取組を進めている。先日策定した公共施設マネジメントアクションプランにおいては、メセナや保健センターの複合化・集約化が課題として挙げられている。また、先行して取り組むべき事項であるリーディングプロジェクトとして、庁舎の建替え、文化スポーツセンターの再整備、跡地活用の3事業が挙げられている。</p> <p>これらの取組を進めるにあたっては、ご指摘いただいた点についても課題の一つとして認識している。複合化等について市で検討した部分については、本審議会でも紹介させていただき、さらにご意見をいただければと思う。</p>
委員	八潮市は水害に弱いという歴史もあるので、駐車場を立体駐車場にすることも適しているのではないかと感じた。また、防災という点を考慮すると、職住が近接しているのが好ましいのではないかと。
議長	<p>立体駐車場の方が多少安全なのではないかとの意見であった。この中で、緊急車両については普通の車両とは分けて考えなければいけない。</p> <p>また、すべてが一挙に整備できる財源はどこの自治体にもないと考えている。限られたハードの中では、人の動きや人々の連携といったソフトの部分が重要であり、ソフトの部分についても整理が進まないとなると全体像が掴みづらいものと考えている。</p> <p>市の検討はどの程度進んでいるのか。</p>
事務局	駐車場について川口市の事例を紹介させていただきたい。ご指摘のとおり、八潮市では水害

	に悩まされてきた歴史がある。この水害への対応策を考えておく必要があるものと認識している。川口市では、1階を駐車場とし、災害時の本部機能や電算機能といった重要な機能を1階に配置しないとといった取組がなされている。こういった方法やいただいたご意見も一つの案としながら、今後具体的検討を進めていきたいと考えている。
議長	様々な工夫が求められる事業だと理解している。今後具体的検討を進めていく中で委員の意見が反映されるだろうと考えている。
委員	本審議会に参加している委員の方々には、それぞれの理想とする庁舎があるものと認識している。ぜひ各委員から意見を聞きたい。
議長	審議会の進め方について意見いただいた。例えば防災一つをとっても、それぞれの意見があるものだろうと認識している。 何名かご指名して意見を伺いたい。最初の委員はどのように考えているか。
委員	ワークショップにも参加させていただいた。ワークショップでは、市民から様々な意見が出されており、非常に重要な審議会であることを改めて感じ、発言内容について深慮している。
議長	次の委員はどのように考えているか。
委員	都内では水が地下に流れ込むように設計されていると聞いた。水の行方を作るという意味では、地下駐車場も水害への対応策としては適しているのではないかと感じた。
議長	都市防災の観点では、水の行方を作るということが重要である一方、非常に難しい議論でもある。 都内では、地下貯水槽が整備され水害が減ってきているが、これには国家レベルの莫大な費用がかかり、一自治体が取り組むには難しいものであると考えている。
議長	次の委員はどのように考えているか。
委員	八潮に長く住んでいるが、直接水害の被害に遭った経験はない。ただ、昔に比べ道路の水はけが良くなったように感じている。
委員	審議会では、市民の意見を取り入れることも大事だが、もう少し全体を見通した核となる議論に取り組むことが大事なのではないか。 歴史に目をむけると、明治の初め頃までは水害予備船を用意するような地区であった。近年での出来事ばかりに目をむけずに、より広範の視点を持つてはどうか。 ただし、議論を広げすぎても、予算の限度についても考慮しなければならないものと理解している。限られた予算の中でどのように工夫できるのかを考えていくことが、本審議会に求められているのではないか。
議長	全国の多くの自治体では、地域防災計画を策定しているが、実際の動きを想定したものではないと認識している。その中で大事になるのは、まず自分たちの命は自分たちで守るといった取組を促進していけるか、どこまでを行政の対策として可能であるかを考えることが重要である。
委員	阪神淡路大震災の事例を見ていると、役所を守ることは重要であると感じた。市役所の電算機能等が失われれば、市民の守られるべきものがなくなることに繋がる。
議長	市民データを守るといったご意見をいただいた。市民データのバックアップといった具体的議論は、庁舎内部では進んでいると思うが、本審議会にはまだでてきていない点であると認

	<p>識している。</p> <p>防災への意見については、庁舎整備にとどまらず、防災全体の取組に関係してくるので、取組状況や今後どう対応していくのか次回報告いただきたい。</p>
--	---

②アンケート内容の確認について

事務局	資料に基づき説明
議長	何かご意見等はあるか。
委員	4 ページの最上段に市民との協働についての質問があり、選択肢として「自然スペース」とあるが、どのようなものを想定しているのか。
事務局	ワークショップでの意見を踏まえ設問を設定しているところである。豊島区役所の事例をご確認いただきたい。豊島区役所では屋上庭園を整備しており、区内の小学生等の環境教育に用いられたりしている。このようなスペースを想定している。
委員	豊島区は都会ということもあり、自然スペースを設けているのだと思う。八潮市には必要ないのではないか。
委員	そう考える人が多ければ、アンケート結果にそのように現れるものであると認識している。ワークショップで出てきた意見を選択肢に反映しているだけなので、アンケート項目に挙げられているもの全てを整備するという考えではないと理解している。ただ、「自然スペース」という単語は伝わりづらい可能性がある。
事務局	アンケート内にて、補足書きによりわかりやすくなるよう修正する。
議長	ご意見を参考に修正いただきたい。
委員	2 ページの間4については、ある程度グルーピングがされている方がわかりやすいのではないか。 駐車場、駐輪場、公共交通の利用、窓口の位置、はアクセスの話であるし、その他には利便性の話や、施設機能の話などに整理できるのではないか。 また、無作為に抽出されるということだが、層別無作為の方が適切ではないか。
事務局	年齢については無作為だが、地域ごとについてはバランスを取りたいと考えている。
委員	年代別でも実施した方が、世代ごとの意見が抽出しやすくなるのではないか
事務局	既に抽出作業が終わっており、今からの対応は難しい。
委員	年齢はどのように区切っているのか。
事務局	八条・潮止・八幡の3地区それぞれに1,000人ずつ送付されるように手配しており、世代間の調整は行わず、18歳以上の無作為抽出である。
議長	4 ページに、年齢についての設問があるので、それを元に世代別の意見を抽出するように集計してほしい。
委員	高校等に協力を仰ぐことはできないか。
議長	若い世代の意見を取り入れてほしいとのことだと思うので、また別に検討いただきたい。
事務局	アンケートの考え方は、地域ごとの意見を取りたいということを主眼に置いていることにご理解いただきたい。 中学生や高校生については、別途意見をもらう場を設けたいと考えている。毎年一回高校生

		に、広報やしおの一部の編集をしてもらっており、そこで対応いただくことについて検討している。
委員		問 10 にて、防災について質問しているが、地震という選択肢がないのはなぜか。
議長		おそらく地震に耐えられるように建て替えるということが前提になっているためではないか。
	事務局	設問の文言を変えることによって、地震に耐えるということは明示するように対応する。 また、これまでの市のアンケート調査においては、年齢別の抽出をしたことがないことが多いが、回答者の属性はおおよそ市の年齢構成に近いものになる傾向がある。既に作業を進めているところもあり、ご理解いただければと思う
委員		2 ページの問 4 では、どのような不便さを感じるのかを聞いているが、役所を訪問している人に対してのみでなく、訪れない人へも聞くべきでないか。
議長		アンケートの文量制限もあり、このような形になっているものと認識している。
	事務局	今回のアンケートでは、現在の庁舎そのものについての利用・印象等に着目した質問としている。また、設問自体が多くなってしまう懸念もあり、このようにさせていただいた。

③規模設定の考え方について

	事務局	資料に基づき説明
議長		国の基準、他市の事例、民間企業の調査データ、様々な視点から検討いただいた。
委員		お金の議論が出てこないが、その点について、どのようにお考えか。 例えば、吉川市では、はじめ予算を 50 億円として計画を進めていたが、10 億円程予算確保ができないということで、40 億円での計画を改めて作り直したと聞いている。また、20 億円ほど積立てがあったことも聞いている。 起債や積立て等、建設費に対する意見や状況をお聞かせ願いたい。 また、複合化に対する補助等があるのかも調査いただきたい。
議長		財源については、ワークショップでも多くの意見が出されていた点である。可能な範囲でご回答いただきたい。
	事務局	平成 26 年度に耐震化調査をまとめている。その中で、I s 値を 0.9 以上に目標設定し、他市の事例の工事費から想定したところ、平米あたりの建設費は 35 万 1 千円であったため、今回資料に掲載した規模で概算すると、約 39 億円から約 58 億円となる。また、メセナを複合化した場合については、ホールという特殊な施設でもあることから、建設費がさらに積みあがると予想されている。 財源については、平成 27 年度に庁舎整備基金を創設し、今年度末で約 9 億円となる予定である。起債については、庁舎単独では総事業費に対して 75% までの起債ができるとされている。ただし、災害等の対応ということで、平成 32 年度まで 90% までの起債ができるとされており、一部交付税の措置がなされるものである。活用できる状況であれば、活用していきたい。
議長		防災機能を持たせると、特例的に充当率が 90% に緩和されるということか。事業費補正の 90% ということか。

事務局	記憶が不確かな部分があるので、確認した後に回答させていただきたい。
委員	メセナを複合化するという話が出ているが、それについての国からの補助はないのか。
事務局	メセナ等の文化施設については、補助のようなものはないと認識しており、起債と一般財源での対応になると認識している。
委員	本日はじめて庁舎のエレベーターを利用したが、狭いと感じた。利用が増えると予想されるため、その点について検討いただきたい。
議長	そういった点は今後具体的な検討の中でされていくと思われる。
委員	起債・補助の際に、建物の寿命は制限を受けるのか。65年とせず、100年とするようなことは可能か。
議長	学識委員に専門的意見をいただきたい。
委員	ライフサイクルコストやライフサイクルCO2の中で、建物の一生にかかるコストを検討する必要がある。 将来、技術が進歩することを踏まえると、ある程度の性能のものを用意しておき、後から耐震化等の長寿命化を図るという考え方もある。また、ライフサイクルコスト等を考えると、大きさにもよるが建替える方が効率的であるという考え方もある。 また、現在最適であると考えた庁舎が、100年後も最適な庁舎であるとは言い切れない面もある。 おそらく基本計画、基本設計等で考えられていくものと思われる。
委員	オレンジのファイル資料「市庁舎耐震化業務報告書（概要版）」の16ページに、ライフサイクルコストについての検討がなされている。 月日の流れによって、法律や使い勝手、考え方が変わることが多い。確かに物理的に100年耐えられる庁舎を整備することは可能であるが、そういった点から考えるとあまり好ましくないのではないか。 規模についての議論に話を戻すと、現在のところ国の基準等で検討されている11,000～16,000㎡程度をおよその目安として議論を進めるのが良いと考えている。予算面での制限の話もあるが、あまりそれを最初から重要視しすぎると市民も職員も使い勝手の悪いものが整備されてしまうという事例もある。
委員	13ページにて、同規模の自治体の事例から平均値をとっているが、サンプルの傾向が一律ではない。この場合は平均値ではなく、サンプル数を増やすか、中央値をとるといったことが必要ではないか。 また、16ページにて、コクヨ調査による地方債基準と人口比率の数値を総務省基準の1.25倍とされているが、現在の市の人口を考えてコクヨの調査を見ると1.05倍としてもよいのではないか。1.25倍としたのはどうしてか。
事務局	13ページについては、ご指摘を踏まえて精査したい。 16ページについては、現在の人口規模では、10万人を下回っているが、第5次総合計画の将来目標人口10万人より、1.25倍と整理している。
委員	建物の寿命は30年程度でいいのではないかと考えている。30年後には人口規模も変化し、技術進歩により庁舎のニーズが変わる可能性もある。

	そういった変化を考慮しておく必要があるのではないか。
委員	市役所が不要となっても、躯体が残っていれば他の施設が入ることも考えられる。そのような考えでの意見であったこと、ご理解いただきたい。 せつかくの市役所建設であるから、シンボリック性があってもいいのではないかと考えている。
委員	鉄骨であれば拡張性があるが、RCでコンクリートの壁を作ってしまうと拡張性がなくなってしまうのではないか。 近隣市の事例では、どのような構造となっているのか。
事務局	今回は規模について取りまとめたので構造は把握していないため、次回の審議会で紹介できればと思う。
議長	将来の可変性と、シンボル性についての議論が高まってきたと感じている。 ぜひ各委員には、八潮のシンボルについての考えを深めていただき、次回以降そのような議論を進めてみてはいかがか。
委員	平成28年3月策定の八潮市人口ビジョンでは、2060年まで推計されており、9万5千人をピークに減少すると考えられている。 そういった計画も確認すべきではないか。
議長	人口推計は、策定当時の時代的背景を踏まえた数値になっている点もあるので、今後よく考えていただき検討をすすめていただきたい。

5 その他

事務局	次回の第4回審議会は、事前にご連絡のとおり、10月27日（金）14時から、八潮メセナの3階会議室での開催とさせていただきます。後日、詳細についての連絡をさせていただきます。 第5回の審議会は11月17日（金）の9時30分より、八潮メセナの3階会議室での開催とさせていただきます。 次回の第4回審議会ではアンケート、ワークショップの結果を踏まえて今まで審議いただいた事項をご確認いただき、第5回では基本構想の素案について議論いただきたいと考えている。
-----	--

6 閉会

(以上)